

ダラリラ第1回公演「フィッシャーマン」

脚本 古堅元貴

登場人物

門田 メンドイ (25) 九十九里の漁師

○九十九里・漁船（朝）

荒天の中、漁に出ている漁師たち。その中に門田
メンドイ（25）。網で捕獲したフグを釣り上げよ
うとしているが、

メンドイ「んん・・・ぐああっ！・・・だめだッ！・・・」

倒れ込むメンドイ。すぐさまスマホを取り出し、画
面越しにフグを見る。

メンドイ「先輩漁師に（すみません！でもやつぱ越しじゃ

ないと・・・スマホのカメラ画面越しなら見れるん
です！・・・むしろこうやって目の前のフグを、マン
ゴーに加工すれば、フグ全然見れます！」

その瞬間、大きな波に襲われ、スマホを落とすメン
ドイ。

メンドイ「ああああスマホ！？・・・（目の前にフグが来て）
フグああああ嗚呼！？」

○メンドイの家

仕事後。流し台で必死に手を洗うメンドイ。魚の
匂いやヌメヌメ感を身体から完全に取り払おうし
ている。外では町内放送が流れている。

町内放送「こちらは防災九十九里です。昨日14時頃
から、25歳の漁師の男性が行方不明になって

ますー、お名前は・・・(と続き)」

傍の机には PC。メンドイ、手を洗いながら ChatGPTと音声会話をしている。

メンドイ「(GPTに)肉眼で見れなくても、別にいいよな？」

GPTの回答を待つメンドイ。

GPT(音声)「もちろんです！フグを肉眼で見るとは難しいかもしれませんが、漁師になるためには肉眼で見る能力よりも、船の操縦技術、漁業の知識、そして健康な体を保つことの方が重要です」

メンドイ「そうだよな、頭固てえんだよ。例えばだけど、魚は触れなくても、海流を読むのは抜群だったらさ、その人は漁師だよな？」

GPT(音声)「もちろんです！漁師は海流を読むことで効率的に漁を行うことができます。海流は海洋生態系において重要な役割を果たしており、漁師がそれを理解することは持続可能な漁業にも寄与します」

メンドイ「わ、思ったたこと一緒！僕はね、もっと皆が柔軟になって欲しいだけなの。ってか見て」

GPTに向かって前屈をするメンドイ。

メンドイ「やわらかいっしょ！前屈得意なんだよ。これ男子の中ではめっちゃ柔らかい方だよな？」

GPT(音声)「もちろんです！柔らかい体は、運動の幅を広げ、健康的な生活をサポートします」

メンドイ「分かってんね！僕さ、この柔らかかさもあってね、小さい頃の夢、ダンサーだったんだよ。驚いた？・・・でも家のこととか色々あってさ、まあほぼ家のせいで夢諦めちゃって、だから家のせいでずっと悔やんでただけど、でも・・・やっぱり家のせいで！・・・」

GPT(音声)「(食い気味な)もちろんです！」

メンドイ「！？・・・それは今から世界一のダンサーを指しても、遅くないっていう意味のもちろん・・・」
GPT(音声)「(食い気味な)もちろんです！あなたが夢に挑戦する事を楽しみにしていました」

メンドイ「・・・おまえ」

新生児のような輝きを放つメンドイ。直後踊り出し、モノローグが流れる。

メンドイM「その夜、僕は九十九里を飛び出し、ダンサーになるために、目白にある日本最大のダンサー事務所「レッツダンスハッピー」に向かった。そして、そのスクール生となった。除籍されそうな時期も数度あったが、その度100万円を入金すると講師の先生から「君、いいね」と言われ、免れるこ

とが出来た。卒業間近、僕はさらに150万円を追加すると、事務所の先輩・輝かしい伝説のダンサーズさんのバックダンサーとして、音楽番組に出演できることになった」

○ステージ裏

ライブ本番後。「おつかれたあー!」、「最高だったね!」などの言葉が飛び交う中で、

メンドイ「(業界慣れたような)おつかれたあー! いや全然っす、めっちゃ緊張しましたよー(と謙遜ぶると)」

演出家から1人だけダメ出しを受けるメンドイ。

メンドイ「(演出家に)え、僕すか?・・・いやそんなつもりは・・・出してないです・・・(横のバックダンサーを見て)それ、小吉さんじゃないすか?・・・僕は演出通りにやってみました!むしろ他のダンサーたちの潤滑油やってたくらいです!」

去ろうとする演出家。その肩を掴むメンドイ。

メンドイ「待ってください!ほんとに潤滑油なんです!・・・(掴んだことに)すいません。・・・でもリハの時何も言われませんでしたよ・・・本番では少し変えましたけど、それは舞台って生ものですから、

そつちのチヨイスした方が、逆に他のダンサーにもいいエッセンス与えられると思って・・・」

去ろうとする演出家を再び制止しようとするメン
ドイ。演出家と取っ組み合いになると、演出助
手・下黒石まいがメンドイを押し倒す。

メンドイ「押し倒されたことに「え、下黒石さん！？・・・演出助手だからって、こんな演出家を庇う事・・・まさか・・・え、下黒石さんと・・・お2人付き合って・・・（確信して）やっぱり・・・なんでまいまい・・・こんな奴と付き合ってるん・・・」
慰めながら、手を握り合う演出家と下黒石。

メンドイ「（2人を見て）今、手握ってませんでし・・・（さらに近づき）ん、指絡ませあってませんでした！？絡ませて・・・え、もう仕事って終わってるんですけど？・・・いや、個人的な意見ですけど、公私混同の付き合いをしている演出家と演出助手って、僕らに客観的な演出って付けられるんですよか！？何よりチーム内にこういうスタッフがいるから（関係者に連行される）売れ出したのに消えちゃうアーティストがいるんですよ！・・・ねえまいまい！まいまい！？まああいいまああ！」

関係者に連行されるメンドイ。

メンドイM「翌日、僕はダンサーのスクールから、バックコーラスのスクールに向向することになった。ダンススクールに戻る為、200万を追加入金したら、講師の先生から「君いいね」と言われ、僕はある現場に参加することになった」

○スタジオ

まるでファーストテイクのような収録現場。緊張の面持ちで待っているバックコーラスのメンドイ（26）。歌手・まつきーが入ってくる。

メンドイ「（まつきーに）おはようございます！・・・よろしくお願いします！今回バックコーラスを務めさせていただきます！ありがとうございます！・・・もちろんっす！学校の運動会とか全校合唱とか必ずまつきーさんの曲使われてましたし、僕らの代の教科書にも載ってましたよ！・・・新曲いいっすね、なんか新たなオンリーワン？感じました！」

挨拶が終わり、位置に付くメンドイ。

メンドイ「お願いしまーす！」

曲が流れ、一発撮りがはじまる。イントロ部分で、要らぬコーラスを入れるメンドイ。悦に浸ったのか直後のAメロでボーカルよりも歌詞を口ずさむメ

ンドイ。すぐさま曲が止まり、メンドイの前にプロデ
ューサーらがやってくる。

メンドイ「!?・・・」(プロデューサーらに)あ、まっきーさん
久々の復帰ですもんね・・・たしかに！全盛期に
比べると・・・でも何か逆に声若返ってませ
ん!? やっぱ凄えつすわー、現場久々だとは思え
ませんよー、いえ！全然僕ら待つんで！」

「おまえのせいで止まったんだよ」とプロデューサー
から告げられるメンドイ。

メンドイ「え、僕ですか!? 今、僕のせいで止まったんす
か!?・・・目立とうとしたつもりは・・・」(横の
コーラスに)君じゃない? 小吉くんだけ?・・・君、
プロデューサーや監督がいる飲み会だと、意地でも
その横座ろうとして、他の人たちの会話遮ってで
も、プロデューサー陣の過去作褒めまくるけど、そ
の後の作品には全く呼んでもらえないタイプでし
よ?・・・なんで分かる? 人間性が透けちゃっ
てるから! それがコーラスに出ちゃってるから!
(関係者に連行される)・・・いや! 僕は共演者
と隅で日本酒お酌し合うタイプです・・・まっきーさ
ん! まっきーさん! まっきーいいいいい」

連行されるメンドイ。

メンドイM「この日の撮影は、一発撮りという趣旨から外れた史上初のツーテイクになった。逆にそれが話題となり、まっきーさんは再び第一線で活躍するようになった」

テロップ「10年後」

○バックオフィス

PCでリモート会議をしているメンドイ(36)。

メンドイ「お疲れ様です！・・・今月多いっすね・・・はい、バックダンサー98名をバックコーラスに出向。バックコーラス462名をバックオフィスに出向。了解しました」

会議が終わり、横の後輩を見つめるメンドイ。

メンドイ「(後輩に)昼食った？・・・行く？おまえの行きたい店言えよ」

移動するメンドイと後輩。

○メンドイの家(四ツ谷三丁目のワンルーム)

仕事後。ChatGPTと話すメンドイ。

メンドイ「(GPTに)ねえ、まいまい(GPTの名前)、後輩をさ、昼飯に誘ってやったのよ。行きたい店連れてってやるよって言ってる？どこ行ったと思う？」

GPT(音声)「分かりません。早く話を続けて下さい」

メンディ「(GPTに)うん・・・そいつね、フレンチのお店選んだのよ。しかも周りの客、平日の昼なのにデカイサングラスして、足元にデカイ犬連れてる奴しかないフレンチ！12000円飛んだからね！そのあとそいつさ、眠くなっちゃったって、タクシーで帰ったんだよ！？はあ！？だよな！昼休憩で連れてってやったのに、これじゃ早退じゃねえか！？」

GPT(音声)「早退ですね。ハハハ、今日一面白れえ」

メンディ「まあ焦らなかつたけどね！・・・でもまだダンスやってたら・・・ダンス続けてたら昼飯にフレンチは・・・ダンスが・・・ダンスで・・・ん、ダンサーの夢、どした？・・・やば、ダンス忘れてた・・・いいか！昼休憩にフレンチ連れてかれても、焦らないんだから！・・・なあ！」

GPT(音声)「凄いですね。ハハハ。フレンチ半端ねえって」

メンディM「翌日、僕は姉妹会社のバックルームに出向することになった。フレンチ後輩は社長の甥だった。なぜ愚痴が漏れていたのか？ChatGPTに「おまえが裏切ったのか？」と聞いたら、『半端ねえって』と返ってきた。直後パソコンを破壊した」

○バックルーム

衣装の荷出しや在庫発注などを行っているメンディ。

メンディ「ああああ！（とバランスを崩しそうになるが、先輩が助けてくれ）あ、ありがとうございます！・・・えあ！？」

メンディの前には元・輝かしい伝説のダンサーズのメンバー。興奮し、硬直するメンディ。

メンディ「・・・皆さん、輝かしい伝説のダンサーズじゃないですか！？・・・僕、皆さんに憧れて、九十九里からダンサー目指して、出てきたんです！・・・実は一度だけ皆さんのバックダンサーもやらせてもらってて・・・引退したと聞いてましたが、ここにいないなんて！？」

メンディのミスを次々と指摘するダンサーズ。

メンディ「え、ここ間違ってますか？・・・あ、これ表計算ソフト使ってますか！？・・・すみません手洗い表示、見てなかったです・・・え！？こんなに事務所を持ってかれるんですか！？・・・いやペニーオークシヨンやってないです・・・ごめんなさい一遍に指摘しないでえ・・・ダンスやれや」

メンディの発言に詰めてくるダンサーズ。

メンディ「・・・いや、すみません、つい・・・」

さらにメンディに詰め寄るダンサーズ。

メンディ「・・・皆さんが一週に伝えるから、それを止めようとして不意に出してしまったというか・・・」

なぜかメンディに感謝するダンサーズ。

メンディ「え！？またダンスやりたいんですか？」

激しく頷くダンサーズ。

メンディ「でも・・・(踊り出すダンサーズ)ちよつと！踊らないで下さい！途中でですよ！でも・・・分かりました！皆さんがダンスまたやりたいのは・・・今フオーメーション考えなくて大丈夫です・・・でもみんなにでかかど引退会見たのに、また復帰したら、やっぱり他の仕事は続かなくて芸能界戻ってきたよ、芸能界甘いな〜とか・・・輪になってミーンディングしないで下さい！今誰がセンターとか決めなくていいです！・・・まだ何も決まってないのに方向性で揉めないで下さい！」

メンディM「このような光景が半年続いた。僕は終止符を打つために、彼らと新ユニット・甚だしい伝説のダンサーズを結成した」

○公園(夜)

ダンス練習の休憩中。1人座っているメンディ

(37)。近くでは輪になってたばこを吸い、談笑しているダンサーズ。

メンドイ「(ダンサーらに手を叩き)はい！皆さん休憩終わりですよ！たばこ止めて下さい！公園内喫煙禁止です！週刊誌に撮られたらおしまいですよ！・・・はい、再開します！（カウントを取って）1！2！3！4！・・・ちょ！たばこやめてくださいー！」

葉巻を吸い始めるダンサーズ。

メンドイ「もう一度やりたいって言ったの皆さんですよね！練習はしたくないけど、ライブや音楽番組は出たいて虫がよすぎます！・・・今年オーディションに落ちたらもう8年ですよ・・・結婚して脱退したメンバーもいます。焼肉店経営してるメンバーもいます。勿論逮捕されたメンバーもいます。でも皆さんはダンスやりたいからここにいますね！・・・はい？16ビート？すみません、16ビート覚える前にスクール辞めちゃったので・・・ダウンアップと8ビートしか出来ません！・・・僕が必ず皆さんをまたデビュー・・・」

突如、犬が乱入してくる。

メンドイ「(犬に)あああ！？犬！？・・・(ダンサーズに)

犬はいいですから！（犬に）邪魔だな！向こうい
け！（ダンサーズに）犬無視してください！犬を焚
き付けないで下さい！！犬に勝手に名前付けな
いで下さい！！犬に16ビート教えようとしな
いで下さい！（犬に噛まれて）イタああああ！
犬！？足噛んだああああお！（ダンサーズに）
だったら犬と踊れよおオオ！もうおしまいだよ！」

テロップ「10年後」

○バックルーム

在庫管理をしているメンディ（47）とダンサーズ。

メンディ「作業しながらダンサーズに）皆さん！今日の練
習は、新宿中央公園の噴水前ですよ！この前の
牛久の公園じゃないですよ！あそこ出禁になりま
したから」

突然、人事部の人がやってきて、

メンディ「お疲れ様です・・・え、辞令？」

人事部、辞令を渡し、すぐさま去っていく。

メンディ「（引き留めようと）ちょ！・・・足早ッ・・・（辞令
を見て）え、僕らバックルームから異動です・・・異
動先？・・・えバッグ？・・・バッグって？バッグつ
て部署無いですよね？・・・」

放心状態のダンサーズ。

メンドイ「・・・じゃ本当なんですね・・・なんとなく、バックコーラスからバックオフィスに出向させられた時から？・・・バックオフィスの次はこのバックルーム。そしてここでも出向させたら、次はバッグ。つまりかばん。つまり社長のかばん。つまり革製。つまり僕らの身体は社長のバッグの材料にされるってことですよね！・・・」

大きく頷くダンサーズ。

メンドイ「・・・いいんですか！？売れてる時は散々いいように使われて賞費期限が過ぎたと思われたら、果ては社長のバッグにされるんですよ！しかも絶対合成革です！着色とか、人工物とか、いろんな添加物と混ぜられて、皆さんの素材そのままなんて活かしてくれませんよ！・・・何があっても自分がバッグになっちゃ絶対ダメです！・・・爆破しちゃう、社長のバッグ生産工場」

団結するメンドイとダンサーズ。

○社長のバッグ生産工場

フグにそっくりな爆弾を仕掛けるメンドイ。それを見ているダンサーズ。

メンディ「あ……フグに見えるかもしれないですが、これボムなんです……僕、漁師やってて、でも魚がダメで、魚を見る事も触る事も出来なかったんです……でもある日、一匹だけ触れる魚がいて、僕はフグが触れた！と喜んでいたら、それはボムだったんです。これはその時のボムです」

無関心のダンサーズ。

メンディ「……いや、フグに見えるんですけど、これボムなんです……いえ、僕がボムじゃないです！この一見、フグに見えるものがボムで……いや、僕自身がボムなら、それ自爆ですよね！？……これはフグの形をした時限式のボムで……だから時限式の僕じゃないです！？それは自爆です！これはボムです！……とにかく（ボムを指さし）数日後、このフグに見えるボムが爆発して工場が……だから僕はボムじゃないです！？」

○バックルーム

在庫管理をしているメンディとダンサーズ。

メンディM「いつだ？いつ爆発するんだ？時限式と言ってたが、それはいつだ？確認し忘れた。もう確認しようがない。一体いつだ？どのいつだ？何がいつだ？」

あ爆弾か。それがいつだ？確認し忘れた」

そこに執行役員になった下黒石まいがやってくる。

メンドイ「え！？まいま・下黒石さん！？お久しぶりで
す、・・・いや、はじめましてではなくて・・・あの
前にバックダンサーやってた・・・はい！あの時
は・・・え、執行役員になられたんです
か！？・・・あ僕は、バックダンサーやったあと、バ
ックコーラスに異動になって、バックオフィスに異動
になって、今はここのバックルームの、まあ・・・潤
滑油です！・・・で、今日は？」

来月から社長のバッグ制度が廃止され、SDGs
リュックが導入される旨を伝える下黒石。

メンドイ「（それを聞き）・・・え！？社長のバッグ制度廃
止！？・・・（ダンサーズに）来月から社長は、タ
バコの吸い殻で作られたSDGsリュックを使用す
ることに決めたそうです・・・世間体が理由でし
よう・・・じゃあ社長のバッグの材料になることは
もう！？？」

歓喜するメンドイとダンサーズ。すぐさまたばこを
吸い始めるダンサーズ。

メンドイ「（ダンサーズに）皆さん！吸い殻がSDGsになる
からって、どこでもタバコ吸っていいわけじゃ・・・

(走り去るまいまい) あ！ 待ってまいまい！・・・
(すでに数キロ先にいるまいまい) 足早ッ・・・え？
そしたら社長のバッグ生産工場は？・・・(ダンサーズに) 僕ら爆弾しかけちゃいましたよ？ もう爆破する必要のないのに爆弾を・・・あ！？・・・まいまい、このあと社長のバッグ生産工場の喫煙所にある吸い殻をリュック生産工場に移動するって・・・まいまいが・・・このままだとまいまいがボムで・・・」

喫煙所へ行くこうとするダンサーズ。

メンディ「どこ行くんですか？・・・タバコいいですから！
喫煙所行かなくなったら人とコミュニケーションは取れます！ ボムを止めましょう！」
走り出すメンディとダンサーズ。

○社長のバッグ生産工場

工場へ到着し、ボムを回収するメンディら。

メンディ「(ボムを抱え)これでまいまいは無事・・・(吸い殻を移動させてるまいまいを見て)・・・バイバイ
まいまい・・・(ダンサーズに)行きましょう」
「どこへ？」な表情のダンサーズ。

メンディ「すみません！ 解除方法はわかりません！・・・

(ダンサーズに詰められる)ごめんなさい一遍に悪
口言わないでえああ!？」

その最中、犬が乱入してくる。

メンドイ「(犬に)また犬ああああ!？・・・(ダンサーに)
犬はいいですから!(犬に)邪魔だな!向こうい
け!(ダンサーズに)犬無視してください!犬を焚
き付けないで下さい!!犬に勝手に名前付けな
いで下さい!犬に16ビート教えようとしな
いで下さい!あ!?犬ボム噛んだああ!なんか動い
てます!(ダンサーズに)フグじゃないです!ボムで
す!僕じゃないです!僕から離れても意味ないで
す!・・・(ダンサーズに押し倒され)僕を遠ざけ
て、犬とボムと集合写真撮らないで下さい!(ボ
ムが発光し)だめだ!もう間に合わない!(視線
の先に突然海が現れ)あ!目の前に海!海に投
げよう!(メンドイを掴むダンサーズ)僕を投げよう
としないで下さい!?ボムを投げるんです!?僕
が海にボムを投げますから!・・・(ボムを持ち)あ
ああああ!」

爆弾を海に(客席へ)投げるメンドイ。

直後、爆音!「ドガアああ eeeeeんんッ!」

呆然と見ているメンドイとダンサーズ。するとメンド

イのスマホに着信。

メンドイ「(出ると)え……僕の家が燃えてる！？……
(スマホ画面を横向きにし)これ今のNスタの生中
継？……なんで？ たった今この海に投げたばかり
じゃないか！なのになんで家が……なんで四谷三
丁目のワンルームが……」

サイレンが鳴る。直後、メンドイに向かって網が投げ込まれ、警察に確保される。

メンドイ「なんで！？せめて手錠で捕まえて下さい！どうして網なんですか！本当に警察ですか！海に爆弾を投げたのに、燃えたのは四ツ谷三丁目のワンルームなんですよ！？まずそこを捜査してくださいよ！？なあダンサーズ！今こそお前らの歪んだ主張を国家権力にぶつけ……」

どこにもいないダンサーズ。

メンドイ「あれ、ダンサーズは？おい！ダンサーズ！？(警察に)さっきまで一緒にいたんです！僕だけじゃないんです！ダンサーズがいたんです！？でも丸々いないんです！？」

突如、意識を失い、連行されるメンドイ。

〇九十八里・港(朝)

網の中で捕獲され、意識を失っているメンディ。

町内放送「こちらは防災九十八里ですー、昨日18時

頃から47歳の会社員の男性が行方不明とな
っておりますー」

目覚めるメンディ。辺りは以前生活していた九十
九里の景色。

メンディ「!?!?・・・九十九里!?え、なんで・・・」

どこからかモノローグが聴こえてくる。

メンディM「九十九里?違う。ここは九十八里だ」

メンディ「九十八里!?!」

メンディM「九十九から1を引いた九十八だ。こうやって
学校で習ったことは使えばいいんだ」

メンディ「・・・はい」

メンディM「私分かるか?私だよ」

メンディ「・・・福岡の叔母ですか?」

メンディM「違う。何度かおまえの前に現れた狂犬だ」

メンディMは狂犬モノローグだった。

メンディ「あ!?そっちか」

狂犬M「二択だったのか?」

メンディ「・・・いやあ?」

狂犬M「九十八が1になるまで、おまえにはチャンスがあ
る。さあ網を持って立ち上げれ」

網から出て立ち上がると目の前にはフグ。

メンドイ「（フグに気づき）フグうわッああ！？ん、あれ？

え・・・フグが・・・肉眼で見れる！触れ

る！？・・・（フグに）おまえのせいで・・・おまえを

見れて、触れてればこんな事には・・・でも今は触

れられ・・・」

よく見るとフグが、ボムだと気づくメンドイ。

メンドイ「フグじゃない・・・これボムだ・・・だから触れ・・・」

爆音！「ドガアああぁぁぁんんんッン！！」

狂犬M「おまえが悪い。次は九十七里だ。今回こそ網を

活かすんだ」

タイトル『フィッシャーマン』

おわり